京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（5 年計画の 3 年目）

１．研究課題

ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義

French Symbolism as the Starting Point of the Post-human Era

２．研究代表者氏名

森本　淳生

MORIMOTO, Atsuo

３．研究期間

2021 年 4 月-2026 年 3 月(3 年目)

４．研究目的

19 世紀を通じて大きな成長をとげた資本主義経済とテクノロジー、識字率の向上と出版・メディアの発展、第三共和政とともに決定的となった世俗化=脱キリスト教化は、社会と人々のメンタリティを決定的に規定すると同時に、こうした事態に対する批評意識を生み出した。フランス象徴主義はその端的な表現である。象徴主義者たちは、ブルジョア社会と産業資本主義に強い嫌悪感を示しているが、貨幣やテクノロジー、同時代の経済社会に対する考察は、その思索の本質的課題のひとつである。また、伝統的な信仰が成立しなくなった時代にあって「超越」との新たな関係が模索される。こうした社会や技術、宗教をめぐる省察を背景として、文学と芸術の新しい方式が、自由詩や内的独白をはじめとする様々な技法上の試みを通して追究されたが、そうした技法的変革も、自己の社会的規定性に対する批評意識によるものである以上、自己自身のあり方の変革を伴うものだった。詩人はたんに作品を書く人間ではなく、作品制作を通して自己の実存を変える者なのである。現在、グローバル経済と金融資本主義が席巻し、新しいテクノロジーが社会を一変させているが、私たちはその恩恵を享受するとともに強い息苦しさを感じてもいる。伝統的な信仰は瀕死の状態だが、原理主義や新興宗教が勢いを持ち、他方で「世界の終焉」が強く感じられる中で、近代的な「人間」以後の生存のあり方が模索されてもいる。

19 世紀後半に象徴主義が取り組んだ問題は、今日、こうしたポスト=ヒューマン時代を生きる私たちが直面する課題に通じる。その「起点」として象徴主義を複眼的に捉え直し現代を理解する示唆をえること、これが本研究の目的である。

The important factors in 19th century European development—capitalism and technology, literacy rates and publishing, secularization or de-Christianization made decisive with the advent of the Third Republic—not only determined the direction of modern society and

public thinking but also created a critical consciousness regarding that situation. French symbolism was its precise expression. Although the symbolists displayed hatred of bourgeois society and industrial capitalism, they regarded technology, finance and economics as essential themes of their reflection. And, in an age when traditional faith had lost its influence, they sought a new relationship with "transcendence." It is against this background concerning society, technology, and religion that symbolism pursued new modes of literature and the arts through various techniques, such as free verse and internal monologue. However, this technical revolution, because it resulted from a critical consciousness of the socially determined self, was inevitably accompanied by a revolution of the self; a poet is a person who not only writes a piece but changes his/her own existence through such production. Today, new technologies have radically changed the world, and the global economy, together with financial capitalism, dominate it. We enjoy their benefits but, at the same time, we feel greatly suffocated because of them. Although traditional faith is in its death throes, fundamentalisms and new cults are exerting growing influence. Feeling that "the end of the world" is near, we seek a new mode of existence which will come after the "human" in the modern sense. These problems we face in this post-human age share much with those that symbolism tackled in the second half of the 19th century. The purpose of this study is to reconsider symbolism from multiple perspectives as the "starting point" of the post-human era and to posit some suggestions that may allow us to understand our times.

５．本年度の研究実施状況

令和５年度は研究報告会と訳読会を計 11 回開催した。報告会では令和 4 年度にひきつづき、メンバーがそれぞれの研究テーマについて発表し知見の共有に努めた。具体的には、モレアス、バンヴィル、ユゴー、ヴァレリー、ロラン、ドビュッシー、リラダン、ローデンバックなどの作家・音楽家を考察の中心に据え、詩法・小説・音楽・メディアの観点から象徴主義を分析した。あわせて、人文研アカデミーの枠内でシンポジウム「催眠とアンドロイド――ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの会話」を開催し、『未来のイヴ』を文学のみならず精神医学やロボットの哲学の観点から読み直し、社会還元に努めるとともに、人文研招聘のクローディ・ベルナールによる講演会も実施した。訳読会では、令和 4 年度に終了したギルの詩集『至善の生成（Le meilleur devenir）』の翻訳・註解の原稿を『人文学報』に投稿し、初校の校正を終えている。同書はフランスでも註解がほとんど存在せず、翻訳されるのも（英訳等も含め）世界初の試みである。訳読会はその後、レニエの『古のロマネスク詩集』に移り、順調に翻訳・註解が進んでいる。企画している象徴主義に関する「読む事典」については「ヴァレリー」の項目を完成させた。これを見本として、令和 6 年度以降各項目の執筆を加速化させたい。

６．本年度の研究実施内容

2023-05-13 「象徴主義研究」例会（14） 1890 年代のモレアスにおける象徴主義 発表者 立花史 早稲田大学 アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』の翻訳に向けて 発表者 鳥山定嗣 文学研究科

2023-05-14 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）(1) Poèmes anciens et romanesques : Le Fol automne, I-II 発表者 松浦菜美子 関西学院大学　コメンテーター 森本淳生

2023-07-22 「象徴主義研究」例会（15） テオドール・ド・バンヴィルと象徴派詩人たち 発表者 松村悠子 早稲田大学 感覚=運動サイクル、錯綜体、詩的創造――ヴァレリー『コレージュ・ド・フランス詩学講義』をめぐって 発表者 森本淳生

2023-07-23 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）(2) Poèmes anciens et romanesques : Le Fol automne, III-IV 発表者 松浦菜美子 関西学院大学　コメンテーター 森本淳生

2023-10-07 「象徴主義研究」例会（16） 早咲きの叙情詩人？ ヴィクトル・ユゴーの抒情詩の変遷 発表者 中野芳彦 慶應義塾大学 ジャン・ロランのジャーナリスト作家としてのスタイル　世紀転換期の「噂話の詩学」発表者 辻昌子 大阪公立大学

2023-10-08 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）(3) Poèmes anciens et romanesques : Le Fol automne, V 発表者 菅原百合絵　コメンテーター 鳥山定嗣 文学研究科

2023-11-25 「象徴主義研究」例会（17） 絶対音楽と象徴主義 発表者 黒木朋興 上智大学 音楽の修辞的弁論から詩的解釈へ ――ドビュッシー《ボードレールの５つの詩》より Le Balcon における音楽的モチーフの機能―― 発表者 上田泰史 人間・環境学研究科

2023-11-26 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）(4) Poèmes anciens et romanesques : Le Fol automne, VI-VII 発表者 菅原百合絵 Poèmes anciens et romanesques : Le Salut à l'étrangère, I 発表者 学谷亮 中京大学　コメンテーター 岡本夢子 滋賀県立大学

2023-12-16 催眠とアンドロイド――ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの会話　司会 森本淳生　コメンテーター 木元豊 武蔵大学　発表者 中筋朋 人間･環境学研究科　発表者 上尾真道 広島市立大学　発表者 井上卓也 日本学術振興会特別研究員（PD）　発表者 宇佐美達朗 京都大学非常勤講師

2024-03-02 「象徴主義研究」例会（18） Essai d'une généalogie de « La Soirée avec Monsieur Teste » 発表者 森本淳生　Le veuf, la sainte et la tentatrice dans les romans de Georges Rodenbach 発表者 Claudie Bernard New York University

2024-03-03 「象徴主義研究」例会（19） ソワナの復讐 ヴィリエ・ド・リラダン『未来の

イヴ』におけるジェンダー闘争 発表者 木元豊 武蔵大学 象徴主義 プルーストの美学的触媒 発表者 中野知律 一橋大学

2024-03-11 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）(5) Poèmes anciens et romanesques : Le Salut à l'étrangère, I-II 発表者 学谷亮 中央大学　コメンテーター 岡本夢子 滋賀県立大学

７．共同研究会に関連した公表実績

なし

８．研究班員

所内

森本淳生、菅原百合絵、藤野志織、藤貫裕

学内

村上祐二(文学研究科)、鳥山定嗣(文学研究科)、中筋朋(人間･環境学研究科)、上田泰史(人間･環境学研究科)

学外

合田陽祐(山形大学社会文化システム研究科)、西村友樹雄(一橋大学言語社会研究科)、山田広昭(東京大学大学院総合文化研究科)、橋本知子(千葉大学大学院人文科学研究院)、坂巻康司(東北大学大学院国際文化研究科)、中野知律(一橋大学社会学研究科)、中畑寛之(神戸大学人文学研究科)、岡本夢子(滋賀県立大学人間文化学部)、辻昌子(大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター)、野田農(早稲田大学創造理工学部)、福田裕大(近畿大学国際学部)、熊谷謙介(神奈川大学国際日本学部)、久保昭博(関西学院大学文学部)、足立和彦(名城大学法学部法学科)、松浦菜美子(関西学院大学文学部)、大出敦(慶應義塾大学法学部)、立花史(早稲田大学)、学谷亮(中京大学教養教育研究院)、黒木朋興(上智大学)、松村悠子(早稲田大学)、海老根龍介(白百合女子大学)、原大地(慶應義塾大学)、袴田紘代(西洋美術館)、フォコニエ、ブリス

9．共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数 総計	受入人数 海外研究者	受入人数 若手研究者（40歳未満）	受入人数 若手研究者（35歳以下）	受入人数 大学院生	延べ人数 総計	延べ人数 海外研究者	延べ人数 若手研究者（40歳未満）	延べ人数 若手研究者（35歳以下）	延べ人数 大学院生
人文研所属	1	5	1	0	2	0	48	1	0	34	0
（内女性）		(3)	(1)	(0)	(2)	(0)	(28)	(1)	(0)	(28)	(0)
京大内（人文研を除く）	2	6	0	0	0	2	19	0	0	0	17
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(7)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学	6	7	0	1	0	0	41	0	7	0	0
（内女性）		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(18)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学	2	2	0	1	0	0	13	0	8	0	0
（内女性）		(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(13)	(0)	(8)	(0)	(0)
私立大学	10	15	0	2	0	0	92	0	20	0	0
（内女性）		(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(16)	(0)	(9)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
その他　※		68	6	0	0	0	93	11	0	0	0
（内女性）		(10)	(3)	(0)	(0)	(0)	(16)	(7)	(0)	(0)	(0)
計	23	105	7	4	2	2	311	12	35	34	17
		(21)	(4)	(2)	(2)	(0)	(100)	(8)	(17)	(28)	(0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要	2023年12月16日に開催した人文研アカデミー「催眠とアンドロイド――ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの会話」への参加者のうち、班員以外は「その他」に計上した。										

10．本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数		うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	1		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	2		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	Lettres françaises	1	R5.5	象徴派小説における演劇の位置――『グベールのお嬢様方』（1886）の場合	合田陽祐
2	クローデルとその時代	1	R5.6	マラルメとクローデル －二人のフランス詩人のワーグナー論を巡って	黒木朋興
3	クローデルとその時代	1	R5.6	アリストテレスと唐辛子――ポール・クローデルの俳諧受容	大出敦
4	クローデルとその時代	1	R5.6	クローデル、メルラン、幣原――1924 年の極東	学谷亮
5	Le vent se lève	1	R5.8	アンリ・ド・レニエ「何者かが〈夕べ〉と〈希望〉を夢想する」（『さながら夢の中』所収）翻訳の試み	森 本 淳生、鳥山定嗣
6	Études de langue et littérature françaises	1	R5.8	Les enjeux de la lecture publique à la fin du XIXe siècle— le cas du cabaret du Chat Noir	Yumeko Okamoto
7	現代思想	1	R5.12	魂の行方――ポール・クローデルの平田篤胤	大出敦
8	ステラ	1	R5.12	アンドレ・ジッドの音楽観における反ドイツ的側面	西村友樹雄
9	ステラ	1	R5.12	文学、言語、伝統――滞日期ポール・クローデルの講演活動	学谷亮
10	人文研究	1	R5.12.	神経文学論（２）－ラシルド『動物女』における「心なき」女と獣なるもの	熊谷謙介
11	ステラ	1	R5.12	響き合う〈魂〉――ポール・クローデルと平田国学	大出敦

12	年報・フランス研究	1	R5.12	「幻覚」を感染させること：ポール・マルグリット『女房殺しのピエロ』をめぐって	中筋朋
13	ステラ	1	R5.12	ゾラ『作品』における未完の風景画：小説と絵画の生成過程	野田農
14	Naturalismes en réseaux. Approches réticulaires et connectées	1	R6.3	Succession ou rivalité ? – Les réseaux littéraires construits autour du ‘‘roman symbolique’’	Yosuké Goda
15	国立西洋美術館研究紀要	1	R6.3	象徴主義演劇における「文様」と「装飾」：19 世紀末フランスの美術と演劇の交差をめぐる試論	袴田紘代
16	ヴァレリー研究	1	R6.3	感覚=運動サイクル、錯綜体、詩的創造――ヴァレリー『詩学講義』（ウィリアム・マルクス編、ガリマール、全二巻、2023 年）をめぐって	森本淳生
17	Études françaises	1	R6.3	テオドール・ド・バンヴィルと象徴派詩人達：未完の詩的言語改革を巡って	松村悠子

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	クローデルとその時代	大出　敦	R5.6	水声社	
2	動物 x ジェンダー―マルチスピーシーズ物語の森へ	熊谷謙介（共編著）	R6.2	青弓社	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

令和 6 年度も基本的な枠組みは同じであるが、研究を加速化するため、研究報告会と訳読会の回数を増やし、計 15 回程度開催する。フランスの代表的な研究者（フランク・ジャヴレ、ジャン=ニコラ・イルーズ）の講演会も予定している。訳読会は当時の代表的詩人であったアンリ・ド・レニエの『古のロマネスク詩集』の翻訳と註解をひきつづき進めていく。レニエの散文は比較的翻訳があるが、詩の受容はきわめて限定的であり、この作業によって日本における彼の詩の理解が進むことが期待される。「読む事典」については暫定的に完成させた「ヴァレリー」の項目を見本として、外部執筆者への寄稿依頼など具体的な執筆作業をさらに進めていく。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

すでに初校の校正をおえたギル『最良の生成』の解題・翻訳・註解は 5 月頃には『人文学報』に掲載予定である。レニエの『古のロマネスク詩集』の翻訳と註解についても同様に公表できる目処を令和 6 年度に付けるようにしたい。研究発表会を通じて成果論文集の構成を考えるとともに、「読む事典」については「ヴァレリー」のみならず主要作家の項目のいくつかを暫定的に完成させ、完成にむけたイメージをより鮮明にしていく。